

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：4年生
---------------------	--------

<p>1. 単元のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活の中にごみの発生原因があること、児童たちの日常とごみ問題が無関係でないことを気付かせる</li> <li>● 大量生産・大量消費・大量廃棄の社会の中で、どうすればごみを減らすことができるのかを考えることで、ごみ減量に関する意識を高める</li> <li>● グループで話し合い発表させることで、ごみ問題に関する多様な考え方や感じ方があることを学ばせる</li> </ul>
---

<p>2. 準備物・教材：</p> <p>【寸劇の登場人物】ゴミラ、少女、エコレンジャー、標語用の短冊（56枚） 散乱ごみの写真、イス、グループディスカッション用の模造紙、筆記用具</p>
--

<p>3. 単元の指導計画：（授業が複数回におよぶ場合に記入）</p>
-------------------------------------

4. 学習の流れ	
学習活動	指導上の留意事項
<p>1. ゴミラの寸劇を行う（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少女がごみを出したことにゴミラが言いかけ、仲間になろうとする</li> <li>・ エコレンジャーが登場し、ゴミラを追い出すが、少女の話を聞き、ごみを減らすためにはどうしたらよいか児童と考えることにする</li> </ul> <p>2. 班別のグループワーク（ごみの削減方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればごみを減らすことができるか班毎に討議してまとめ、発表する</li> </ul> <p>3. エコレンジャーによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコレンジャーが児童の発表の評価を行った後、3Rについての解説をする</li> </ul> <p>4. 班別のグループワーク（エコ川柳）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう一度話し合い、ごみの削減の標語を各自川柳にまとめ班で発表し、グループで一番いいものを決める。さらに、学年で一番良いものを選出する。</li> </ul> <p>5. ゴミラの寸劇を行う（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度登場したゴミラに向けて、決めた標語を全員で声を合わせて唱える。</li> <li>・ ゴミラも改心し、ごみを出さないようにすることを誓う。</li> </ul>	<p>&lt;グループワークの討議手順&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればゴミラの家来にならないか（ごみを出さなかったらゴミラは来ない）</li> <li>・ どんな時にごみを出すか</li> <li>・ ごみを捨てる時に何を思って捨てるか</li> <li>・ どうすればゴミはなくなるか</li> </ul> <p>&lt;児童に気づかせること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ごみを燃やす」ことは、ごみが目の前から消えるだけで、灰の処理が残り、本質的な解決にならない</li> <li>・ 「リサイクル」は最後の手段、何よりもまず「リデュース」（排出抑制）が重要</li> <li>・ 標語づくりに抵抗のある児童には、キーワードをいくつか提示する（例．リサイクル、リユース、リデュース、ごみへらそう、地球等）</li> </ul>

<p>5. 評価の観点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どうすればごみを減らすことができるかについて様々な具体的な取り組みが打出せたか</li> <li>● グループ内での意見の提示とそのとりまとめはうまくできたか</li> <li>● 標語を川柳の形でうまく表現することができたか</li> <li>● 3Rの言葉とその意味を理解したか</li> <li>● 再利用や再生利用より排出抑制が重要なことに気づいたか</li> </ul> <p>本プログラムはあくまでも導入であり、3Rについての深い理解はまだ必要ではない</p>
--

#### 6. 応用のための留意点：

廃棄物関連のプログラムは第3・4学年の社会科や第5・6学年の家庭科に位置づけられる。第4学年では、ごみ焼却場の働き等を理解し、地域の一員としての役割を自覚させるようになっているので、それと関連して展開させる。また、第5学年では、「家庭の生活と住居」領域だけでなく、調理実習と関連させ「食物」の領域での展開を図ることなどが考えられる。

廃棄物関連のプログラムの展開にあたっては、理科や社会科など他教科の指導内容との連携も図りながら取上げ、ごみ問題への対応について主体的に実践できるようにする。

学習活動の実際：ゴミラがやってきた〔外部講師〕

学校名：東広島市立板城小学校

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：4年生
日付：2005年9月28日（水） 時間：2コマ（3,4時限） 場所：2階多目的教室	

#### 1. プログラムの効果：

- ・今まで、児童は、リサイクルをすればごみに出すよりは資源を再び活用できるので、良いことだと考えていた。しかし、本プログラムで、ごみを減らすためには リデュース リユース リサイクルの順で有効であることを学んで、そうではないことに気づいた。それは、エコ標語づくりで、自分たちの考えを代表する標語を選出するとき、リデュースを読み込んだものを多く選んでいたことでもわかる。
- ・川掃除では、自分たちがごみのポイ捨ての当事者ではないとしていたが、自分たちの生活自体が、多くのごみを生み出していたことに少しずつ気づいてきている。
- ・児童が日ごろつくり慣れている標語という形で、学習の成果を表現したことは、児童に自然に3Rの意義を考えさせることにつながった。

#### 2. 児童の感想・児童の変化：

児童が作った作品から

- ・ ごみへらそう 地球かがやけ もう一度
- ・ 最後まで 使おうそのごみ すてないで
- ・ ごみへらそう みんなのために 自分のために
- ・ マイバッグ 持って行くだけで リデュースだ
- ・ リデュースを みんなでしよう がんばろう

児童の日記から

- ・ 今日、三時間目と四時間目に、広島市から先生が来られて、げきをしてくれました。まず、ごみをへらす方法をみんなで考えました。ぼくたちのグループは、リサイクルについて考えました。リサイクルできるものは、ペットボトルやスチールかんにアルミかんやざっし・古新聞、それからだんボールでした。
- ・ げきは、すごく笑えるところが多くてよかったです。ゴミラは、「これは、じゅ業だから、そんなことを言っているんだよ。じゅ業が終わったら、ポイすてするんだろ。」  
と言っていたけど、ぼくは、このじゅ業を受けていてもいなくてもしません。
- ・ リサイクル、リユース、リデュースの大切さがわかりました。

#### 3. プログラムの課題と改良点：

- ・ グループで自分たちを代表する標語を選んだときに、選ぶ観点を明確にしておけば、ねらいにそったものが出てきたのではないかと思われる。

#### 4. その他考察等：

- ・ 時間の割り振りの打ち合わせが十分でなかった。
- ・ グループ討議に支援が必要ではなかったか。

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：1～6年生
---------------------	----------

<p>1. 単元のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活の中にごみの発生原因があること、児童たちの日常とごみ問題が無関係でないことを気付かせる</li> <li>● 大量生産・大量消費・大量廃棄の社会の中で、どうすればごみを減らすことができるのかを考えることで、ごみ減量に関する意識を高める</li> <li>● グループで話し合い発表させることで、ごみ問題に関する多様な考え方や感じ方があることを学ばせる</li> </ul>
---

<p>2. 準備物・教材：</p> <p>【寸劇の登場人物】ゴミラ、少女、エコレンジャー</p> <p>散乱ごみの写真、イス、グループディスカッション用の模造紙、筆記用具</p>
---

<p>3. 単元の指導計画：( 授業が複数回におよぶ場合に記入 )</p>
---------------------------------------

4. 学習の流れ	
学習活動	指導上の留意事項
<p>1. ゴミラの寸劇を行う（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少女がごみを出したことにゴミラが言いがかりをつけ、仲間にしようとする</li> <li>・ エコレンジャーが登場し、ゴミラを追い出すが、少女の話を聞き、ごみを減らすためにはどうしたらよいか児童と考えることにする</li> </ul> <p>2. 班別のグループワーク（ごみの削減方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればごみを減らすことができるか班毎に討議してまとめ、発表する</li> </ul> <p>3. エコレンジャーによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコレンジャーが児童の発表の評価を行った後、3Rについての解説をする</li> </ul> <p>4. 班別のグループワーク（エコ川柳）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう一度話し合い、ごみの削減の標語を班毎に川柳にまとめ発表し、みんなで一番いいものを決める</li> </ul> <p>5. ゴミラの寸劇を行う（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度登場したゴミラに向かって、決めた標語を児童全員で大声で唱える</li> <li>・ ゴミラも改心し、ごみを出さないようにすることを誓う</li> </ul>	<p>&lt;グループワークの討議手順&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればゴミラの家来にならないか（ごみを出さなかったらゴミラは来ない）</li> <li>・ どんな時にごみを出すか</li> <li>・ ごみを捨てる時に何を思って捨てるか</li> <li>・ どうすればゴミはなくなるか</li> </ul> <p>&lt;児童に気づかせること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ごみを燃やす」ことは、ごみが目の前から消えるだけで、灰の処理が残り、本質的な解決にならない</li> <li>・ 「リサイクル」は最後の手段、何よりもまず「リデュース」（排出抑制）が重要</li> </ul>

<p>5. 評価の観点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どうすればごみを減らすことができるかについて様々な具体的な取り組みが打出せたか</li> <li>● グループ内での意見の提示とそのとりまとめはうまくできたか</li> <li>● 標語を川柳の形でうまく表現することができたか</li> <li>● 3Rの言葉とその意味を理解したか</li> <li>● 再利用や再生利用より排出抑制が重要なことに気づいたか</li> </ul> <p>本プログラムはあくまでも導入であり、3Rについての深い理解はまだ必要ではない</p>
--

6. 応用のための留意点：

廃棄物関連のプログラムは第3・4学年の社会科や第5・6学年の家庭科に位置づけられる。第4学年では、ごみ焼却場の働き等を理解し、地域の一員としての役割を自覚させるようになっているので、それと関連して展開させる。また、第5学年では、「家庭の生活と住居」領域だけでなく、調理実習と関連させ「食物」の領域での展開を図ることなどが考えられる。

廃棄物関連のプログラムの展開にあたっては、理科や社会科など他教科の指導内容との連携も図りながら取上げ、ごみ問題への対応について主体的に実践できるようにする。

学習活動の実際：ゴミラがやってきた〔外部講師〕 学校名：三原市立小坂小学校

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：1～6年生(1,2年生は途中退席)
日付：2005年9月2日(金) 時間：2コマ(5,6時限) 場所：小坂小学校体育館	

1. プログラムの効果：

- ・劇を見た後、縦割り班で話し合いをした。それぞれの受けとめ方や生活経験の中からの気づきを出し合い、話し合いが深まった。
- ・川柳作りは悩みはしたが、上手にできた。
- ・川柳の中で「買い物でいらぬものは買わないぜ」が選ばれた。子どもたちなりに理解したととらえる。

2. 児童の感想・児童の変化：

- ・エコレンジャーさんへ 私たちにごみを減らすためにどうしたらいいかを教えてくれてありがとうございます。買い物ではバックをもっていくことにしました。ごみを山や川に捨ててはいけなこともわかりました。そして、ごみを燃やしても灰が残ってしまうことや、生ごみは肥料になることもわかりました。ごみを減らすだけで地球が変わっていくということもわかりました。そして、ごみを減らすためにいろいろな再利用をしたいと思います。ごみがない小坂町やほかの町や県にしたいです。
- ・ゴミラへ ぼくは「いらぬものはかわない」「ごみは減らそう」「山にごみを放置しない」などいろいろわかった。(中略)リサイクルは最後の手段ということがわかった。
- ・ゴミラ君へ ゴミラ君が見せてくれたごみの写真を見て、山にごみを放置する人がたくさんいることがわかりました。川や海にもごみが捨ててあって、悪い人がたくさんいるのもわかりました。私はその写真を見て、「まだ使えるものはリサイクルすればいいのにな」と思いました。川や海の生き物も死んだらかわいそうです。(後略)
- ・話し合いで出た意見 「マイバッグを持っていこう」「リサイクルに出そう」「生ごみは畑に埋めよう」「フリーマーケットに出そう」「おかしをちょっとがまんしよう」「使えるものはできるだけ長く使おう」「家で野菜を育てよう」「親戚の子に服やおもちゃをあげよう」等

3. プログラムの課題と改良点：

- ・グループによって意見の取りまとめ方には差がでた。普段から、話し合い活動を取り入れ、意見の言い方、受け止め方、まとめ方について学習する必要がある。
- ・3Rについては、リサイクルはほとんどの子は知っているが、あとの二つについては学習の中で理解を図っていきたい。

4. その他考察等：

- ・エコレンジャーやゴミラや女の子などの会話に引き込まれて、児童はごみについて自然に考えなおすことができた。写真の提示やグループ活動などで課題に迫ることができた。写真は光らなければもっとよかった。

プログラムシート：ゴミラがやってきた（どうしてごみができるんだろう）〔外部講師〕

学校名：府中市立国府小学校

単元名：ゴミラがやってきた （どうしてごみができるんだろう）〔外部講師〕	学年：1～6年生
---	----------

<p>1. 単元のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活の中にごみの発生原因があること、児童たちの日常とごみ問題が無関係でないことを気付かせる</li> <li>● 大量生産・大量消費・大量廃棄の社会の中で、どうすればごみを減らすことができるのかを考えることで、ごみ減量に関する意識を高める</li> <li>● グループで話し合い発表させることで、ごみ問題に関する多様な考え方や感じ方があることを学ばせる</li> </ul>
---

<p>2. 準備物・教材：</p> <p>【寸劇の登場人物】ゴミラ、少女、エコレンジャー 散乱ごみの写真、イス、グループディスカッション用の模造紙、筆記用具</p>
--

<p>3. 単元の指導計画：（ 授業が複数回におよぶ場合に記入）</p>
--------------------------------------

4. 学習の流れ	
学習活動	指導上の留意事項
<p>1. ゴミラの寸劇を行う（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少女がごみを出したことにゴミラが言いがかりをつけ、仲間になろうとする</li> <li>・ エコレンジャーが登場し、ゴミラを追い出すが、少女の話聞き、ごみを減らすためにはどうしたらよいか児童と考えることにする</li> </ul> <p>2. 学年毎に組別のグループワーク（ごみの削減方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればごみを減らすことができるか毎に討議してまとめ、発表する</li> </ul> <p>3. エコレンジャーによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコレンジャーが児童の発表の評価を行った後、3Rについての解説をする</li> </ul> <p>4. 組別のグループワーク（エコ川柳）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう一度話し合い、ごみの削減の標語を毎に川柳にまとめ発表する。6年生が作ったものを全校の標語とする</li> </ul> <p>5. ゴミラの寸劇を行う（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度登場したゴミラに向けて、決めた標語を児童全員で大声で唱える</li> <li>・ ゴミラも改心し、ごみを出さないようにすることを誓う</li> </ul>	<p>&lt;グループワークの討議手順&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうすればゴミラの家来にならないか（ごみを出さなかったらゴミラは来ない）</li> <li>・ どんな時にごみを出すか</li> <li>・ ごみを捨てる時に何を思って捨てるか</li> <li>・ どうすればゴミはなくなるか</li> </ul> <p>&lt;児童に気づかせること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ごみを燃やす」ことは、ごみが目の前から消えるだけで、灰の処理が残り、本質的な解決にならない</li> <li>・ 「リサイクル」は最後の手段、何よりもまず「リデュース」（排出抑制）が重要</li> </ul>

<p>5. 評価の観点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どうすればごみを減らすことができるかについて様々な具体的な取り組みが打ち出せたか</li> <li>● グループ内での意見の提示とそのとりまとめはうまくできたか</li> <li>● 標語を川柳の形でうまく表現することができたか</li> <li>● 3Rの言葉とその意味を理解したか</li> <li>● 再利用や再生利用より排出抑制が重要なことに気づいたか</li> </ul> <p>本プログラムはあくまでも導入であり、3Rについての深い理解はまだ必要ではない</p>
---

6. 応用のための留意点：

廃棄物関連のプログラムは第3・4学年の社会科や第5・6学年の家庭科に位置づけられる。第4学年では、ごみ焼却場の働き等を理解し、地域の一員としての役割を自覚させるようになっているので、それと関連して展開させる。また、第5学年では、「家庭の生活と住居」領域だけでなく、調理実習と関連させ「食物」の領域での展開を図ることなどが考えられる。

廃棄物関連のプログラムの展開にあたっては、理科や社会科など他教科の指導内容との連携も図りながら取上げ、ごみ問題への対応について主体的に実践できるようにする。

**学習活動の実際：ゴミラがやってきた〔外部講師〕1～2年生 学校名：府中市立国府小学校**

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：1～2年生
日付：2005年10月31日（月） 時間：2コマ（2,3時限） 場所：国府小学校体育館	

1. プログラムの効果：

- ・導入から、楽しく劇仕掛けに工夫されていたことや、具体物でゴミラが怪獣を連想させるものになっており、1年生が興味をもって学習できた。
- ・「リサイクル、リユース、リデュース」のそれぞれの意味を知ることができた。

2. 児童の感想・児童の変化：

- ・ゴミラに親しみを持ち、ゴミラからの問いかけに意欲的に返事をしたり、声をかけたりしながら、終始楽しみながら学習した。
- ・自分たちの日常生活の中で出るゴミのゆくえが、ビデオで視覚的にとらえることができた。

3. プログラムの課題と改良点：

- ・時間的には集中力が欠けてしまう子もいる。1年生の実態でいえば、2回に分けて行うことが望ましい。

4. その他考察等：

特になし

**学習活動の実際：ゴミラがやってきた〔外部講師〕5年生 学校名：府中市立国府小学校**

単元名：ゴミラがやってきた〔外部講師〕	学年：5年生
日付：2005年10月31日（月） 時間：2コマ（2,3時限） 場所：国府小学校体育館	

1. プログラムの効果：

- ・劇や実物をもとにした展開であるので、分かりやすく興味・関心を持てるものであった。
- ・学習の中で、今までの学習をふりかえり、今後の学習に対する意欲を持つことができた。

2. 児童の感想・児童の変化：

- ・ゴミラなどの動きや言動によって、楽しく学習することができた。
- ・今までの学習をもとに、積極的に参加することができた。

3. プログラムの課題と改良点：

- ・提示された写真が見えにくく、わかりにくかった。
- ・展開の関係で休憩が早く、薄れてしまった子がいた。

4. その他考察等：

特になし